

水俣病判定にキメ手

熊大の筒井教授が発見 眼球の動きに異常



筒井教授

水俣病に異常な眼球運動軌跡があることが、熊本大学医学部眼科の筒井教授の心によって発見された。同教授は二十日、群馬県前橋市で開かれる日本臨床眼科学会で「水俣病の神経眼科所見について」と題して発表するが、これが水俣病診断に採用されると、水俣病判定のキメ手になることが期待される。

水俣病の主要症状としては、これまで湯野鉄さん、運動失調、難聴、知覚障害の四症状が典型とされてきた。このため眼科の分野では、これまで湯野鉄さんの検査だけをしてきたが、筒井教授は眼球運動を調べればなにか変わった結果が出るかもしれないと、眼球運動誘発装置、赤外線電子照孔（うごころ）計を取り寄せ、さる七月の検査からこれらの機器を使って眼球運動の検査を始めた。これまでに水俣病認定申請者六十人を検査したが、このうち八五割に当て

る五十一人について運動軌跡の異常が発見されている。

この検査は、左右に動く物体を目で追いつ、その動きを機械に記録するもので、平常だとその軌跡がきれいなサイクルを描く。ところが五十一人についてはサイクルは描くものの、その流れが不規則で、ギザギザの軌跡を描いている。これは後頭葉障害特有の軌跡。

水俣病は有機水銀によって後頭葉神経細胞が脱落しており、今回筒井教授が発見した眼球運動軌跡はこれに符号ちょう（標）が合ったわけ。同教授はこのほかにもすでに水俣病に認定されている胎児性患者六人を検査しているが、この六人についても同じような軌跡が記録されており、この結果から筒井教授は「水俣病特有のものだと思ふ」と言っている。

同教授は二十日に開かれる日本臨床眼科学会でこの結果を発表す

るが、有機水銀中毒患者の判定にはこれまでキメ手といわれるものがなかっただけに、学会から注目されるものとみられる。筒井教授の話、今度の検査で発見した異常な眼球運動の軌跡は、明らかに水銀中毒特有の後頭葉障害を表わしている。今まで交通障害を認めてきたが、今回この結果が発表されたら、水俣病の診断が出来ると思つたのが、

検査してきたが、こんなひどい軌跡を描くものは見たことがない。しかしこの検査は一日に十五人がつとだし、肝心の検査機器がないのではなかなか進展しない。人があつても検査できない。検査機器を揃えてくれれば、もっと広範な検査が出来ると思つたのだが、